

# 福井地裁 仮処分決定

2015年4月14日福井地裁での決定。  
翌日の朝刊6紙の社説を独断と偏見で4つのポイントで比較してみます。

まずは率直な感想から

規制基準への判断については？

高浜原発差し止め 「負の影響」計り知れない

電力安定供給や地球温暖化防止に  
重大な負の影響をもたらす決定だ。

奇矯感の濃厚な判断である。

奇矯(ききょう)  
言動が普通と違っている事

「合理性を欠く」と断じたが、  
あまりにも乱暴だ。  
原発の安全性をめぐる規制委の審査との間に  
齟齬(そご)を来し、  
国民は何をよりどころにすべきか迷ってしまう。

高浜差し止め 規制基準否定した不合理判断

合理性を欠く決定と言わざるを得ない。

関電が決定を不服としているのは、  
もったもである。

裁判長は新基準の考え方を否定し(中略)  
ゼロリスクを求めた非現実的なものだ。

福井地裁の高浜原発差し止めは疑問多い

今回の地裁決定には、疑問点が多い。

原発に絶対の安全を求め、  
そうでなければ運転を認めない  
という考え方は、現実的といえるのか。

高浜原発差し止め 司法が発した重い警告

現状のなし崩し的な再稼働の動きは  
「安全神話」への回帰につながるという  
司法からの重い警告と受け止めるべきだ。

ゼロリスクを求めて  
一切の再稼働を認めないことは性急に過ぎる

高浜原発差し止め 司法の警告に耳を傾けよ

原発の再稼働を進める  
政府や電力会社への  
重い警告と受け止めるべきだ。

注目したいのは、  
規制委の新規制基準に疑義を呈した点だ。

裁判所の目線は終始、  
住民に寄り添っていて、説得力がある。

国民を守る司法判断だ 高浜原発「差し止め」

高浜原発3、4号機は、  
動かしてはならない危ないもの、  
再稼働を  
直ちにやめさせなければならないものー。  
司法はそう判断したのである。

新規制基準の効力や規制委の在り方そのものを  
否定したと言ってもいいだろう。  
新規制基準では、  
国民の命を守ることができないと、  
司法は判断したのである。

産経

読売

日経

毎日

朝日

東京

## 少しでも感想を

原発で「ゼロリスクが非現実的」ならばなおさら再稼働なんてできないはずで、4年前に事故を経験し、実際の被害がどれほどで、その後始末にどれほどの時間がかかるか分からない状況が続いている中で、「リスクはゼロではないけど今度こそは大丈夫」なんて誰が信じられますか？そして、今回の決定や各社社説では触れられていませんが、原発の持つ本質的な問題はゴミが片付けられないという点でしょう。ちなみにこのゴミは発電時に限らず、ウラン採掘から発電までの一連の工程で生まれる全てのゴミを指します。“安い”電気代の恩恵を享受できるのはたかだか廃炉までの40年。そしてその後はただ危ないだけのゴミを数万年に渡って子孫へと受け継いでいくことになります。ちょっと想像してみましょう。今から数千年前の人類が核廃棄物を山の中に埋めていたら？それを我々が発見した時、我々は何を思うのでしょうか？

### 経済と温暖化対策について

### 最後にひとこと

## 産経

(再稼働が遅れると)  
電気代のさらなる値上げが不可避となる。  
中小企業は耐えられなくなっていく。

二酸化炭素の排出削減計画にも  
乱れが生じる。

原発事故のリスクは、  
ゼロではないが、最小化されている。  
司法は、  
その現実と努力を正しく認識すべきである。

## 読売

<記載無し>

偏った判断であり、  
事実に基づく公正性が欠かせない  
司法への信頼を損ないかねない。

今後、決定が取り消されることを前提に、  
関電は、  
保守点検体制の強化などを着実に進めるべきだ。

## 日経

疑問は、原発の停止が  
経済や国民生活に及ぼす悪影響に  
目配りしているようにみえないことだ。

原発の再稼働をめぐり司法は何を判断すべきか。  
安全性、電力の安定供給、  
経済への影響などを含めて  
総合的に判断するのが司法の役割ではないか。

## 毎日

原発再稼働の是非は  
国民生活や経済活動に大きな影響を与える。

いくつもの問題を先送りしたまま、  
見切り発車で再稼働をすべきでない  
という警鐘は軽くない。

## 朝日

原発コストは、  
事故直後に8・9円以上とされた。  
電力各社は規制委の新基準に沿った  
安全対策費としてすでに2兆円以上を  
投じてきているが、  
今回の決定に則して  
対策の上積みを追われれば、  
費用はさらに上昇しかねない。

決定を突出した裁判官による特異な判断と  
軽んじることは避けたい。

司法による警告に、政権も耳を傾けるべきだ。

## 東京

福島原発事故の現実を見て、  
多くの国民が、原発に不安を感じている。  
なのに政府は、それにこたえずに、  
経済という物差しを振りかざし、  
温暖化対策なども口実に、  
原発再稼働の環境づくりに腐心する。  
一体誰のためなのか。

政府は司法の声によく耳を傾けて、  
国民の幸福をより深く掘り下げるべきである。

(政府は) 原発のある不安となくなる不安が  
一度に解消された未来図を、  
私たちに示すべきである。